

平成14年 5月20日

報道機関 各位

広島大学総務部大学情報室長
西田良一

牟田泰三広島大学長就任1年
大学運営報告会のレジュメについて

先にお知らせしております、明日(21日)開催の牟田泰三学長の就任1年の大学運営に関する点検・評価を含めた大学運営報告会のレジュメを別紙のとおりお送りいたします。

【お問い合わせ先】

総務部 総務課 総務係長
仲良夫
TEL: (0824) 24-6016
(ダイヤルイン)

[発信枚数; A4版 7枚(本票含む)]

○[報告会レジュメ](#)

大学運営報告会 2002.05.21

この1年を振り返って

学長自己点検・評価報告

広島大学長
牟田泰三

1

本日の報告会の趣旨

1年間の大学運営に関する点検・評価

- 公約の確認
 - 学長就任記念講演 2001.07.31
 - 年頭にあたって 2002.01.01
- 実績の点検・評価
- 今後の展望

2

就任記念講演

2002.07.31

- 大学の使命、国立大学の果たすべき役割
- 広島大学の目指すもの
- 私の経歴、私の研究
- グローバルな視点から見た大学改革
- 国立大学法人化
- 遠山プラン
- 広島大学はどのようにするのか
- 広島大学運営の基本方針
- 「トップ30」の意味
- 大学運営に対する考え方

3

年頭にあたって

2002.01.01

1. 教育の質的向上
2. 世界トップレベルの研究の育成
3. 特色ある産学官連携・地域連携の推進
4. 学内賞の創設

4

[次ページへ](#)

広島大学運営の基本方針

• 理念

- 広島大学5原則を原点とし、知的文化の創造、継承、発展のために尽くし、国立大学としての責務を果たす。

• 到達目標

- 世界トップレベルの特色ある総合研究大学を目指す。

• 戦略

- そのためのステップとして、「国立大学法人化」並びに「大学（国立大学）の構造改革の方針」（遠山プラン）に積極的に対応する。
- 「21世紀の広島大学像マスタープラン」を基本とする。

5

広島大学の経営戦略

広島大学という組織を、到達目標に向けて牽引していくための、総合的且つ計画的な方策

- 大学運営戦略
- 教育機能強化戦略
- 研究機能強化戦略
- 社会連携戦略
- 国際戦略
- 情報メディア戦略
- 危機管理戦略
- 支援組織との連携

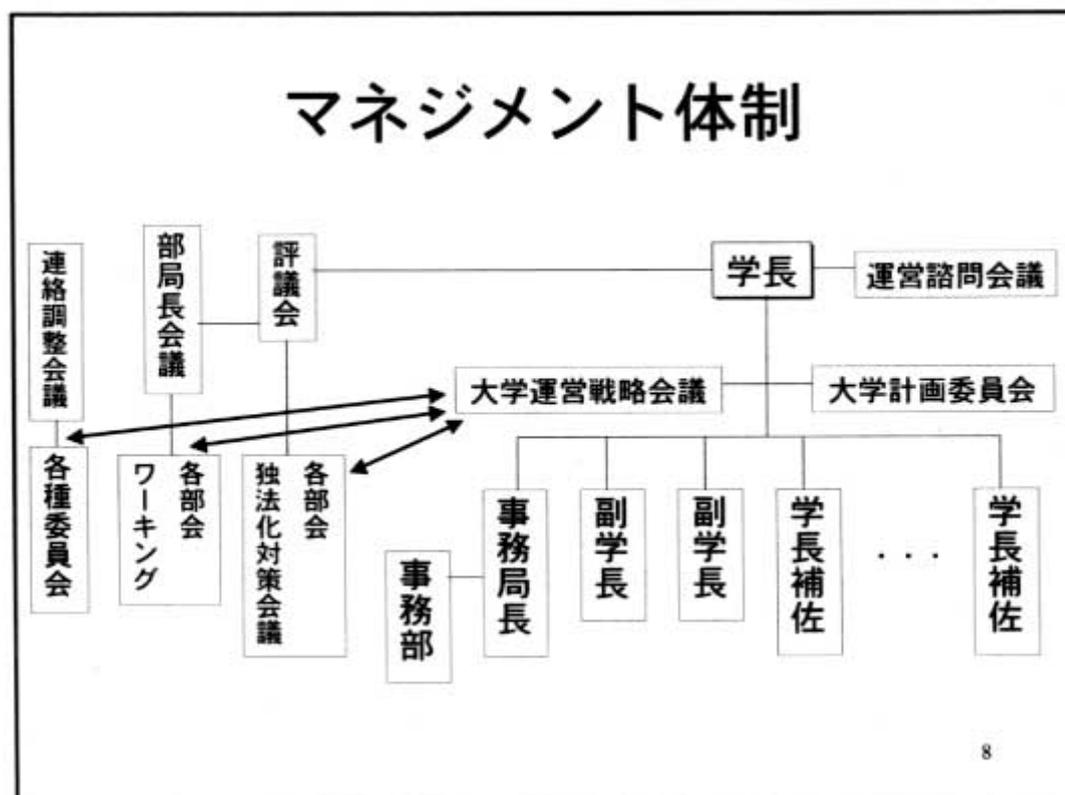
6

大学運営戦略

トップマネジメント体制の整備

- 学長を中心とした運営機能の強化
 - 学長、副学長、学長補佐、事務局長
→ 大学運営戦略会議
大学運営戦略会議設置済み 活動中
 - 大学運営戦略会議と各部会・委員会等との連携
クロスファンクショナルな機能の重視
 - 大学計画委員会 ⇔ 学長
ランチタイムミーティング方式を採用
 - 運営諮問会議による助言・提言
評価に関する助言
- 学外との協調連携
 - 中国地区国立大学長懇談会の提案・実施（6月12日4回目）
 - 中国経済産業局長、中経連会長との懇談
→ 地域産学官連携サミット等
 - NEC広島との組織的共同研究開始
 - 広島県との連携 県教委と協力した高大連携授業の実施
 - 東広島地域との連携 市との協力

7



大学運営戦略会議

- 中長期目標WG
- 再編統合WG
- 研究計画WG
- TLO設立準備WG
- 社会連携検討WG

9

評議会

- 組織部会 A、B
- 人事部会
- 財政部会
- 教育プログラム部会
- 独立行政法人化対策会議

10

教育機能強化戦略

- 教養的教育の再点検
 - 教養的教育委員会の強化再編
教養教育企画室設置
- 専門的教育の見直し・改善
- 大学院教育の見直し・改善
 - 大学計画委員会
教育の質的向上を目指して（仮称）
- 入学者選抜方法の整備充実
 - AOセンターによる検討
- 教育評価システムの整備
 - 学生による授業評価の全学的導入
 - 教官相互による授業参観
 - 評価委員会
学生による授業評価の実施案検討
- 教育研究支援 学術顧問の設置 小和田恒氏 11

研究機能強化戦略

- 実績ある基盤的研究の支援育成
 - 予算配分上の配慮
- 競争的資金への取り組み
 - 研究計画WG（仮称）
研究計画WG設置 活動中
- 研究所・センター等の整備・統合・再編・新設
 - 組織部会B
組織部会B設置済
- 研究組織の再編成・新設・廃止
 - ← 公正な評価に基づく
21世紀COEへの対応

12

社会連携戦略

- 社会貢献担当学長補佐
- 地域との連携強化
 - 地域との連携
 - 学生のボランティア活動
 - 地元住民との共同作業
 - キャンパスツアーの実施
 - 行政等との連携
 - 中国経済産業局、中経連 地域産学官連携サミットなど
 - 教育委員会 高大連携事業推進
 - 商工労働部 知的クラスターの実施
 - 産業振興機構など
 - 地域TLOの設置 TLO設立準備WGで対応
 - サイエンスパーク インキュベーションセンター設置
 - 企業との連携
 - 大学発ベンチャー、産学連携など
 - NEC広島との連携
 - 附属病院の整備充実・地域医療への貢献
 - ひろしま医療ベンチャーコンソーシアム
- マスメディアとの協調
- 国際社会への発信

13

⇒ 大学情報サービス室、大学情報室、アンテナショップ、地域共同研究センター、地域経済システム研究センター

国際戦略

- 世界規模での大学改革の進行
 - 広島大学としての国際戦略の観点が必要
- 広島大学の国際化
 - 留学生数の増大、外国人研究者数の増大
 - 国際会議、研究交流等国際交流活動の活発化
 - 国際センター（仮称）の必要性
 - 国際交流支援室（10月頃設置予定）
 - 海外大学調査研究
 - 大学間協定の見直し・拡大
 - 新規協定大幅増
 - 協定校への表敬訪問 学長2回
 - その他代表訪問 数件

情報メディア戦略

- 広島大学情報メディア化の基本方針
 - 検討中
 - IT担当学長補佐
- 双方向授業、遠隔授業、図書館情報化推進
 - 教養的教育授業・高大連携授業・夜間主コース授業への
双方向授業の活用推進
 - ⇒ 附属図書館
 - 電子ジャーナルの導入
 - ⇒ 情報メディア教育研究センター
 - デジタルアーカイブ計画スタート

15

危機管理戦略

- 危機管理担当学長補佐
- 縦の連絡体制の整備・円滑化
- 危機管理マニュアルの作成
 - 附属病院におけるマニュアル整備
- 経営リスクへの対処
- ハラスメントへの対処と予防策の検討
 - 調査会制度
 - 全学調査WG（仮称）設置
 - 大学院生アンケート調査
- 危機管理保険

16

[前ページへ](#)
[次ページへ](#)

支援組織との連携

- 広島大学後援会の強化
- 同窓会の整備
 - 新卒者の入会状況改善
 - 同窓生メールアドレス登録組織の検討
⇒ ムタ・メールマガジンの活用
- 同窓会連合会との連携強化
 - 広島大学同窓会連合会を広島大学同窓会と改称
 - 第3回広島大学同窓会大会開催 7月6日

17

公約のまとめと1年間の対応

- トップマネジメント体制の整備
 - 大学運営戦略会議の設置・運営
 - 企画立案機能整備 (Cross-functional 機能)
 - 中国地区国立大学長懇談会
- 教育研究活動の活性化
 - 21世紀COE (トップ30) への積極的対応
 - 教養教育企画室の創設
 - 県教委との協力による高大連携授業の開始
 - 学術顧問制度の創設 (第一号) 小和田恒氏
 - 客員教授制度の活用
- 社会貢献
 - 社会貢献担当学長補佐の設置
 - 産学官連携サミットなど
 - 産学連携など
- 危機管理体制の整備
 - 危機管理担当学長補佐の設置
 - 大学院生アンケート調査の実施準備
- 情報開示・説明責任
 - ムタ・メールマガジンの創刊
- 事務機構改革

18

概算要求関係実績

- 当初予算（平成14年度）
 - 医歯薬学総合研究科新設
 - 生物圏科学研究科の改組再編大学院講座化
 - 原爆放射能医学研究所の改組再編（原爆放射線医科学研究所へ）
 - 放射光科学研究センターの全国共同利用センターへの改組・転換
 - 知的クラスター（広島地域 産科研） など
- 補正予算（平成13年度補正）
 - インキュベーションセンターの新設
 - 総合研究実験棟の増設
 - 低温センターのヘリウム液化システム など

19

今後の検討課題

- 広島大学のブランドイメージ（University Identity）の確立
 - IT担当学長補佐を中心とした取り組み
- 教育の質的向上
 - 到達目標型カリキュラムの徹底、プログラム制の導入
- 評価とインセンティブのバランス
 - 学長賞による顕彰と勤奨
- 学内意思疎通
 - 学長とのランチタイムミーティング
- 人事上の柔軟な対応
 - 客員教授、特任教授、学術顧問など
 - 再雇用制度の活用
 - 外部からの優れた人材の登用
- 広島大学出版会の創設
- 産学官連携研究の組織化推進
 - 産学官連携推進担当官
- 国際化への対応
 - 国際交流支援室、国際センター
- 組織の新設・改廃への柔軟な対応

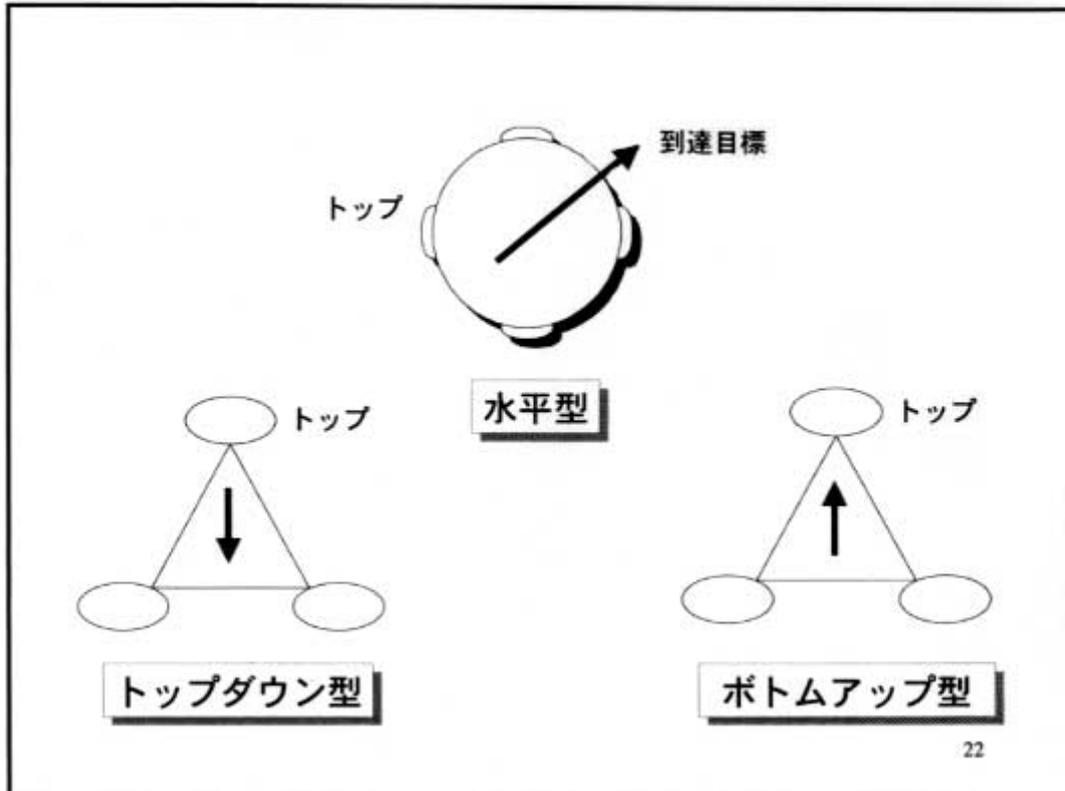
20

[前ページへ](#)
[次ページへ](#)

組織運営に関する新しい潮流

- 民主的ボトムアップ型組織運営
 - 民意を反映、安全確実
 - 独創性開発に不適
 - 迅速性の欠如
 - 組織硬直の危険性有り
 - トップの役割 : 意見調整取りまとめ
- ピラミッド的トップダウン型組織運営
 - 民意の反映には不適、安全確実性の不足
 - 独創性開発に適
 - 迅速性有り
 - 組織硬直、下部組織不活性の危険性有り
 - トップの役割 : 情報管理と指揮命令
- 水平型組織運営
 - 理念・到達目標を原点とする
 - トップから下部組織まで全ての、到達目標に対するeffectivenessを評価基準とする
 - 組織単位毎のリーダーシップを重視
 - トップの役割 : 全ての組織単位を到達目標に向けて方向付けリードすること
 - 変化への対応力

21



22

大学運営に対する考え方

リーダーシップに対する私の見解

人々が、自らの能力が十分に活かされていると感じるような環境を醸成し、ある目標を達成すべく人々を結集させる力

変革期の学長の役割

信頼に基づくリーダーシップ

洞察力、先見性、決断力、構想力

情報共有・意志疎通の一方法

ムタメールマガジン計画

登録した方へ、同窓生へ、外部の方へも

23

ご意見・ご提言を

gakucho@bur.hiroshima-u.ac.jp

24

[前ページへ](#)